月刊漫画

No.22
1966
6月号

カムイ伝⑲

赤目プロ作品
白土三平

カムイ伝

第19回

赤目プロ作品

白土三平

つづく　　禁転用転載　　1966年3月3日　カムイ伝⑲ 完

（後記）

数多い一揆の中で百姓が勝利を得た例は少くない。しかし、たとえ百姓の要求がとおったとしても、かならず犠牲者はつきものである。そして、やはり、武士は武士、百姓は年貢をとられ、その下には非人があることはかわらない。

ここで**玉手村**の一揆は思わぬことから勝利を得た。それにはさまざまの要素が重なり、一揆を有利に導いたことであろう。だが、ここで、それよりもさらに大きな事件は、**正助**の作った綿作が成功したことであろう。

だいたいこの正助のバクチ的な綿作りには作者として大いに疑問点があるわけであるが、又同時に、この正助が一方で新しい農作物の開発を行ないながら、他方では他村の一揆に意識的に参加していく正助の動機、必然的な内面の問題においても深く描かれてない点でも大いに作者は悔んでいる。

とにかく、綿は、稲と違い商品作物であり、ここに百姓が市場とのつながりをもち、生産力の発展のうえで余剰生産物を獲得する条件を生みだしていく糸口をもつわけである。その点から正助の実験は大きな収獲と言えるだろう。だが、すでに同じ商品作物である藺の生産にからんで一揆が起きているのである。

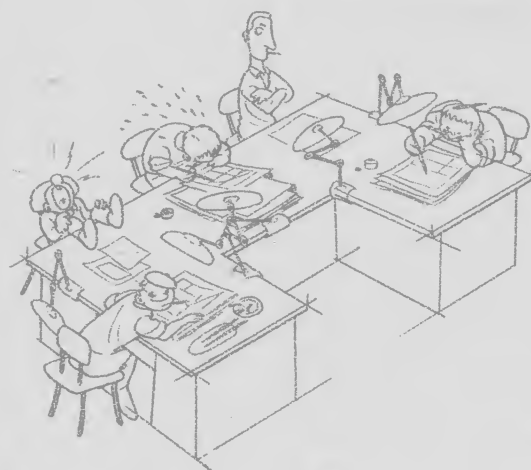
ここで、商品作物を作る者同志、又、その作物の性格上商人と対決せざるを得ない関係が、正助をして一揆に参加せしめたというより、この男は、だいたいおせっかいなタイプの人間と解してもらいたい。

いつの時代にも、おせっかいな人間はいるものだ。しかも年々多くなっている。人に言われてデモに参加するのと、自身みずからすすんで参加するのとでは、そのデモの性格も変わるというものである。

幕府の大名への貿易の制限（糸割符制）、そして鎖国政策、参勤交代制度等による圧力は、そのまま大名から百姓へと移行し、百姓に貧しい自立経済を強い、年貢の収奪を強化し、そして当然起こるであろう反抗に対して身分制度による差別政策が強められていくのは、当然のなりゆきである。だが、これら支配者の政策みずからその制度の矛盾を深めるだけであるが、それを認めることはとうていできないのが権力者の常である。すべて弾圧によって解決するということしか頭にないし、また他にも手がないのだろう。

したがって、一揆が起こったとなると激烈をきわめるわけであるが、又、別の形でも反抗は徐々に進んでいたのだ。正助の綿作（商品作物）、**苔丸、ナナ**の養蚕は、やがて広く**日置領**にひろがり、発展するだろう。ここに、綿、藺の、稲と違った性格の作物は、当然自立経済のわくを越し、直接城下の、又は他の市場と結びつく。そしてその結びつきは、さらに多くの技術の進歩、再生産をもたらすかもしれない。そしてこれにからみ、正助を中心としたほんの一部ではあるが、非人との協力体制がとられ、人間同志の自然な関係が生まれはじめている。だが、これはすでに法度破りであり、支配者のもっとも厭うべきことがらである。

当然、百姓達が生み出した新しい生産も、その芽を摘みとるような方法が必らずとられることだろう。又、百姓と非人との接近に関しても、必らず離間工作がはじめられるだろう。それは、おそらく、無残な、陰気で、残忍な方法をとらざるを得ないだろう。それらは過去の事実が物語っている。

だが、われらのもろもろの主人公達はこの時代に生き、現在われわれがあるのも、この人達が斗い、生きたからこそなのである。そして、今も、この二種類の人種がいる。歴史をあとへ戻そうとする奴らと、われわれの祖先のように、前へ一歩一歩進もうとする人達である。

読者の交歓室

☆「忍法秘話」3・4・10巻をゆずって下さい。お礼として白土先生の作品(本)を差しあげます。白土先生ファンの方お便り下さい。

茨城県日立市幸町一の九の四　木村満男

☆「ガロ」の価格はいくらでしょうか。手に入れたいのですがこちらでは売っておりませんので、近くで売っているところをお教え下さい。

北海道紋別市北浜町三　山田鈴江

☆「ガロ」の2・3月号（カムイ伝③・④）がとても欲しいのですが、どなたか持っていたら売っていただけませんでしょうか？　もしありましたらお知らせ願います。

静岡市南町一丁目十一の五　中西晴子

☆ぼくは今、劇画・漫画クラブを運営しています。そして今度広く全国から会員を募集したいと思います。入会されたい方はぜひお知らせ下さい。女の方おおいに歓迎です。

三重県四日市市本町六の一二　田辺洋

☆「ガロ」読者の皆さん。今度僕が漫画の好きな人達の会を作りました。入会希望の方は十円切手同封してご連絡下さい。

茨城県古河市外上辺見四七六　三田道夫

☆マンガ愛好会を作りました。ぜひ入会して下さい。お問合せは十円切手同封して左記へ！

横浜市港北区日吉本町　南日吉団地41の三〇六　蓼沼三郎

☆漫画制作のグランプリ・プロを作りました。作品をお送り下さい。中学生だけで、上手な人から五名限りです。

横浜市鶴見区東寺尾町一二八八　野間秀樹

新人作品について　お知らせ

●今月から投稿規定を左の通りに改めます。ご注意下さい。

▼〆切はありません。

▼原稿は必らず郵送のこと。編集部へ直接のご持参は一切お断りします。

▼批評希望の方は、返送料を同封の上、その旨はっきりと書き添えて下さい。

▼予選に通過した作品は、再審査のため返送できません。

▼返送希望のない原稿は、整理の都合上審査後直ちに処分いたします。

●赤目プロのアシスタント募集も作品の直接持参は一切お断りいたします。作品及び必要書類を必らず郵送して下さい。

目安箱⑮

日本と朝鮮

―外国人学校制度創設について―

上野昂志

文部省は外国人学校制度を創設しようとしている。この制度は、「外国人学校での教育内容はわが国との友好関係を阻害するものであってはならない。」という基本原則に立って、反日教育を押えることを主眼とし、具体的には①外国人学校設立認可に対する国の関与権、②都道府県による外国人学校の運営についての調査権、③法令違反に対する罰則、などを盛る、―である。（三月二十六日付、朝日新聞）

もし、この制度が具体的に実施されたらどうなるか、簡単にいえば、文部省が外国人学校において反日教育が行われていると判断すれば、その学校を閉校することができるということなのである。外国人学校といっても、文部省の主なねらいは、外国人各種学校七十九校のうち五十五校にのぼる朝鮮人各種学校にあることはいうまでもない。これまでも、「民族教育だから」という理由で各種学校の認可を得られなかった朝鮮人学校が多数あるのだから。

では、朝鮮人学校における教育が、反日か親日かを判断する基準はどこにあるか。文部省の判断の基準をみるためには、権力者の朝鮮観を見ればいいだろう。

「台湾を経営し、朝鮮を合邦し、満州に五族協和の夢を託したことが日本帝国主義というなら、それは栄光の帝国主義であり……」

（一九六二年　椎名悦三郎）

「朝鮮を合併してからの日本の非行にたいしては、私は寡聞にして存じません。」

（一九六三年　池田勇人）

「日本がもう二十年朝鮮をもっていたならよかった。植民地にしたというが、日本はいいことをやった。よくするために努力したが、戦争に敗けたので努力がむだになった。」

（一九六五年　高杉晋一）

これらの発言に一貫している認識は、朝鮮を統治していたころの権力者のそれと、少しも変っていない。だとすれば、彼らの目にうつる「反日」とは、かっての「帝国に叛くもの」というイメージと、どれほどの差があるだろうか。そこでは、事実も事実としては承認されないだろう。

一九一〇年の「日韓併合」と同時に、「土地調査事業」と銘うって、朝鮮の土地とりあげを行った。十年間で、百余万町歩の田畑と千百二十余万町歩の山林をとりあげた。

一九一九年、南鮮に独立運動。

一九二〇年代、一九一八年の「米騒動」にこりた日本政府は朝鮮で「産米増殖計画」を実施。朝鮮から日本への米の輸出は、十年間で五十万石から八百七十

万石へ増加、一方、朝鮮内での消費は千百万石から八百五十万石に減少。

一九二三年関東大震災、「鮮人が暴動を起こすぞ、見つけたら殺しちまえ！」

一九三〇年代、朝鮮に日本資本進出。日本人労働者、日給二～三円。朝鮮人労働者、日給、二十銭～五十銭。

一九三八年、朝鮮人に日本語の使用を強制。自国語を使ったものはなぐられた。

一九三九年、創氏改名、「創氏改名こそは朝鮮人にとって最大の光栄であり、これこそ名実ともに日本人になる道だ」、朝鮮人はついに名前も失った。例えば金→金田。

一九三九年～敗戦、朝鮮人の徴用、二〇世紀の奴隷狩り。朝鮮国内での徴用四百五十万、日本内地への強制連行百万人と推定される。日本全炭鉱労働者の約1/3を占めるに至った。軍隊、軍属、約三十七万人。だが、強制連行、虐待、虐殺の実態は不明、というのは敗戦の時、証拠書類を焼却してしまったから。

一九五〇年から始った朝鮮動乱によって、日本は「奇跡の復興」をとげる。

これらの事実を抜きにしては、朝鮮を、日本を、考えることはできない。とすれば、朝鮮人学校で、歴史の時間にこれらの事実を教えるのは当然であろう。だが、敗戦の時、証拠を焼却し、それと同時に過去の記憶を、インク消しで消すようにぬぐいさってしまった権力者たちは、その歴史を認めないだろう。「これは明らかに反日教育だ、閉校しろ！」その時、歴史教科書は墨でぬりつぶされるであろうか、それとも書き変えられるだろうか、かって朝鮮で使った初等国史のように。

「朝鮮の政治は、代々の総督が、ひたすら一視同仁のおぼしめしをひろめることに力をつくしたので、わづか三十年ほどの間に、たいそう進みました。したがって、世の中はおだやかになって、産業は開発され、中でも、農業や鉱業の進みが著しく、近年は工業の発達もめざましく、海陸の交通機関はそなはり、商業がにぎはい、貿易は年ごとに発展してゆきました。教育がひろまり、文化が進むにつれて、風俗やならはしなども、しだいに内地とかはりないやうになり、制度もつぎ〳〵に改められて、内鮮一体のすがたがそなはってゆきます。地方の政治には、自治がひろまり、教育も内地と同じきまりになりました。とりわけ、陸軍では、特別志願兵の制度ができて、朝鮮の人々も国防のつとめをになひ、すでに戦争に出て勇ましい戦死をとげ、靖国神社にまつられて、靖国の神となったものもあり、氏を称へることがゆるされて、内地と同じ家の名前をつけるやうになりました。」

（初等国史、第六学年、朝鮮総督府、昭和一六・三・三一）

ここには事実はない。歴史の現実はない。あるのは、言葉だけである。「一視同仁」といい「内鮮一体」という言葉のうちに、植民地的収奪という事実は塗りこめられてしまっている。現在の権力者たちの発想もこれと同じだ。「友好のために」という言葉のうちに現実をおおってしまう。このように耳ざわりのいい言葉をばらまくこと、そしてそれらに酔いしれていることの中に現実は腐蝕しつづける。それは歴史の中の恥部に他ならない。私たちは今や、この恥部を直視し、それを白日の下にひきずりださねばならない。そのことこそが、このような破廉恥な制度を骨ぬきにする道につながるのではあるまいか。

一九六五・三・三一

忍者武芸帳・映画化詳報

―スタッフ―

原作……白土三平
製作……中島正幸
……山口卓治
監督……大島渚
撮影……高田昭

―登場人物―

結城重太郎／林崎甚助／明美／坂上主膳／蛍火／無風道人／上泉信綱／柳生宗厳／雷雲党／明智光秀／織田信長／木下藤吉郎

白土三平氏の全十六巻の大長篇漫画「忍者武芸帳」は、群雄割拠の戦国時代、ナゾの忍者影丸と剣一筋に生きる少年剣士を中心に展開するマンガ戦国絵巻であります。

この漫画は各方面で映画化・テレビ化すべく企画されましたが、いずれも実現困難ということで見送られて来ています。それは、あまりにも大規模なロマンであって、たとえば百姓一揆の場面一つにしても、現在の日本映画の時代劇の予算では製作不可能であるということ、また影丸を始めとする忍者の形態とその活動ぶりや作中しばしば重要な意味を持って登場する動物の形態及び活動が、現在の映画技術では表現不可能であるからです。

そこで大島渚監督が思いついた方法は、この白土氏の画（原画）そのものをフィルムに撮影するという方法です。「忍者武芸帳」全十六巻は二万コマに及ぶ画で出来上っています。これをそれぞれ映画的フレームで撮影するのです。例えば一枚の画を何度もカットバックで使用したり一枚の画をアップにしたりロングショットにしたり、パン、移動したり、ズーム、回転、オーバーラップ、ワイプして使用するという方法です。一枚一枚の画はスチールでありますが、そのモンタージュによっては、今までのアニメーション漫画映画や生身の俳優が登場する映画以上の迫力ある効果を出そうとするものです。こうした画面に、音楽や剣の音、風、大群衆の声、又は歌等をふんだんに入れ、俳優によってセリフを吹きこめば、圧倒的な画と音の大交響楽になる筈です。

「忍者武芸帳」のテーマを最も正しく、その方法に於いて最も鋭く追求し、映像化し得るのはこの方法以外にはないという信念のもとに準備をすすめ、三月一日よりクランク・インして十六日のアップまで、三万フィートのフィルムを使用して、二万コマ近い画を撮影し、一部特殊撮影の部分のみを残して一応撮影は完了しました。三万フィートと言いますと映写時間にすると五時間という膨大なものですがこれを一時間四十分位に縮め、編集します。白黒の明確度を強調するために特殊フィルムを使用したり、現像にも特別に注文をつけるということもやっています。だから画面は水墨画のような美しさを発揮しています。あとはこれに部分的に着色をほどこし、色彩効果もねらっています。

われわれはこの撮影方法を「劇画方式」と呼んでいますが、ねらいは完全に成功したと思っています。あと一部撮影、編集、タビングと進みみなさん待望の一般公開も間近になってきています。

登場人物の声の出演には、小沢昭一、小山明子、渡辺文雄、戸浦六宏、小松方正、その他豪華な配役を予定しています。

〈佐々木守〉

× ×

この「映画・忍者武芸帳」の全シナリオが、「映画評論」五月号に80ページに亘って掲載・発表されています。なお、この映画を制作している創造社は、東京都港区赤坂福吉町二スカイマンション五〇三号です。